



# 公民

## 参加型学習を取り入れた権利の保障と公共の福祉における教材開発

静岡県 浜松学院中学校 中澤純一

### 1 はじめに

中学校は平成33年4月1日から新学習指導要領が施行される。「中学校学習指導要領解説(社会編)」には、改訂の眼目として「課題を追究したり解決したりする活動において、社会的現象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の視点や方法」である「社会的な見方・考え方」があげられている。とくに公民的分野における「見方・考え方」をはたらかせる際の着眼点として、「対立と合意、効率と公正など、多様にあることに留意する」ことを示唆している。

「社会的な見方・考え方」は資質・能力の育成全体にかかわるものであり、学習過程のなかで、社会的現象における知識や技能を生徒自身が習得・活用・探究し、課題の発見や課題に向けた活動を通して養われる。また、「社会的な見方・考え方」をはたらかせることは「主体的・対話的で深い学び」を用いた授業改善および実現に向け大きな役割を担うといえる。その際に、有用な教授法として参加型学習があげられる。参加型学習は、学習者が現実社会の課題に気づき、多様な視点から解決に向けて考え、行動変容をうながす能動的学習活動である。

そこで、本稿では権利の保障と公共の福祉を考えるモデルケースを取りあげ、参加型学習を取り入れた授業案を提示したい。

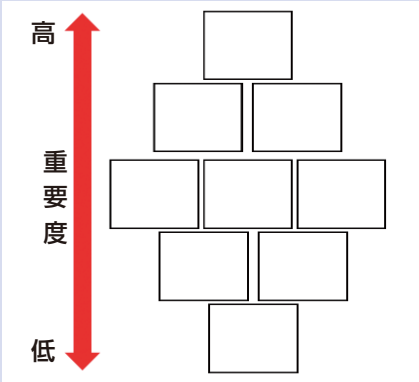
### 2 単元構想

今回扱うのは、『社会科 中学生の公民』（以下、教科書）第2部2章「日本国憲法について考えよう」p.56～57「トライアル公民 青果店を営む男性はどうなる？」である。日本国憲法は基本的人権を「<sup>おか</sup>侵すことのできない永久の権利」（第11・97条）として保障しているが、「濫用してはならないのであって、常に公共の福祉のためにこれを利用する責任を負ふ」（第12条）としている。さらに、「公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする」（第13条）とある。

そこで、本単元では、権利の保障と公共の福祉をめぐって当事者の主張が対立している際に合意を見いだすための「見方・考え方」を養うべく、第2部2章「日本国憲法について考えよう」で習得した知識を活用して解決策を探究するプロセスを尊重した授業を考えた。

表1 単元の構成

時限	学習目標
第1時	日本国憲法とは 日本国憲法にもとづく政治によって国民の自由と権利が守られていることに気づく。
⋮	(中略)
第10時	人権を守るためには 人権を守るために、日本国憲法ではどのような権利が保障されているのか理解する。
第11・12時	〈本時〉 青果店を営む男性はどうなる？(1)・(2) 詳細は次項に示す。



〇〇青果店のAさん

50年前からこの土地で青果店を営んでいます。私の父親から受け継いだこの店を閉めるつもりはないし、移転するつもりもありません。

親の代からのお得意さんが毎日野菜を買いに来てくれます。評判が良く、売り上げも安定しています。うちの店がなくなったら、多くの人が買い物に困ると思います。

15年前に店を改装したときの借金がまだあります。この先も借金を返していかなければなりませんし、私もまだまだ若いので、この地で働いていきたいと考えています。

周辺は住宅地が多く、店を移転できるような土地は近所にはありません。地元で親しまれてきた〇〇青果店を別の土地で営むことなんて考えられません。

上：図1 ダイヤモンドランキング  
右：図2 「役割カード」(〇〇青果店のAさん)

### 3 授業展開例

第11・12時の学習目標は、さまざまな立場による意見の相違から起きる対立の解決に向け、多面的・多角的に分析し、主張の妥当性を判断し、話し合いを通じて合意形成をはかる態度の育成である。本授業では合意形成のプロセスに主眼をおくため、参加型学習の手法であるロールプレイングとダイヤモンドランキングを併用した展開を提案する。

ロールプレイングは教科書p.26～27「トリアル公民 マンションの騒音問題を解決しよう」で扱っているため、生徒は容易に取り組めるだろう。ダイヤモンドランキングは、9つの意見を重要度の順にダイヤモンド型に並べることで考えを整理する手法である(図1)。さまざまな立場の意見が尊重されつつも、そのときの状況で最も優先されるのはどれかという姿勢を意識させることができる。本授業では、授業者があらかじめ「9つの意見カード」を作成し、生徒が並べかえてランキングを作成する方法をとった。

#### (1) 第11時の授業展開例

まず、教科書p.56「**1** 青果店の敷地に道路拡張の計画 ～状況の確認～」で、問題(AさんとB市の主張の対立)の共通理解をはかる。デジタル教科書を活用すれば、視覚的に生徒に興味関心をいだかせることも期待できる。

次に5人ごとのグループをつくり、「役割カード」(図2)を配布する。役割カードは、〇〇青果店のAさん、B市役所の職員、〇〇青果店の近くに住むCさん、ベッドタウンに住むDさん、司会進行役の5種類があり、それぞれの立場からの主張が複数書かれている。Cさんは、教科書p.57**3**のCさん、Eさん、Fさんを合わせた役割とした。また、司会進行役は、「効率」と「公正」を意識した話し合いを通し、「対立」から「合意」へ導く調整役として設定した。

役割カードに書かれた主張や9つの意見についての理解を深めるために、一度同じ役割どうしで集まって、作戦会議を開く。同じ立場から考えた意見のダイヤモンドランキングを組むことで、社会科に苦手意識をもつ生徒も、グループでの話し合いの見通しを立てやすくなる。なお、9つの意見とは次のようなものである。

- ①立ちのくず、そのまま〇〇青果店を続ける
- ②道路の拡張は認められない
- ③Aさんはすぐに立ちのくずべき
- ④正当な補償（お金）のうえでの解決
- ⑤Aさんの人権が最大限尊重されるべき
- ⑥交通量の増加による自然環境の悪化を避ける必要がある
- ⑦B市の市民の生活の快適さのためにも、〇〇青果店を残すことを希望する
- ⑧B市の経済発展のために道路の拡張を進める
- ⑨住民投票を行い、道路拡張の是非について聞き、住民の意見を反映するべき

生徒は①～⑨のうち自分の役割において優先される意見が示された「指示書」を確認し、作戦会議をする。例えば、Aさんが優先するのは①・②であり、財産権の立場からの意見である。Cさんは⑤・⑥・⑦であり、財産権、環境権、生存権の論調となっている。Dさんの優先する意見にある⑨は住民投票の内容である。意見カードに書かれている内容を理解する際、教科書の関連するページを活用することで学習内容の再確認と活用につながり、論点を整理することで探究力が身につく。

今度は各自のグループに戻り、それぞれの立場でダイヤモンドランキング作成のための話し合いをする。さまざまな立場の人の意見を聞き、

多面的・多角的な視点で物事をみて、意見の妥当性を生徒に考えさせることが大切である。

授業の最後に、ほかのグループのダイヤモンドランキングをながめる時間を設けるとともに、話し合いのなかでの意見の対立や、合意にむけて苦労した点などについてふりかえらせたい。

## (2) 第12時の授業展開例

前時は、日本国憲法に定められている基本的人権の尊重の視点を中心に、道路拡張計画について検証させ、話し合いを行った。本時では、財産権が公共の福祉によって制約を受ける場合があることを体験させたい。

まず、日本国憲法第12・13条と、公共の福祉の観点からダイヤモンドランキングの再考をうながす内容を記載した「公共の福祉カード」を配布し、前時につくったものとは別に、公共の福祉の内容を鑑みたダイヤモンドランキングをつくらせる。前時は、それぞれの役割の人権を行使することに比重がおかれた話し合いだったのに対し、本時は、多くの人々とともに、一つの社会のなかで生きていくための合意形成をめざす。自分の人権を行使するときは、ほかの人の人権も尊重しなければならないことを、活動を通して体感させたい。

表2 第11時の授業展開例

学習内容	指導上の留意点・教師の支援
<p>〈導入：10分〉</p> <p>1 青果店を営む男性の状況について知る。</p> <p>〈展開：30分〉</p> <p>2 役割カードを読み、各自の主張について理解する。</p> <p>3 同じ役割ごとに集まり、どの意見を優先するのか話し合い共有する。</p> <p>4 各自のグループに戻り、それぞれの立場で話し合いダイヤモンドランキングを作成する。</p> <p>〈まとめ：10分〉</p> <p>5 各グループできあがったダイヤモンドランキングをギャラリー方式で見に行く。</p> <p>6 ふりかえり</p>	<p>○デジタル教科書を活用し、青果店の敷地に道路拡張の計画があり、主張の対立が起きていることを確認する。社会的なものの見方をおさえた表現を行う。</p> <p>○1グループ5人に分け、「役割カード」を配布する。</p> <p>○「9つの意見カード」と「指示書」を配布し、それぞれの役割、立場、意見を理解するために作戦会議を設ける。各役割の視点に立ったダイヤモンドランキングを考えるよううながす。</p> <p>○話し合いのタイムキーパーは教師が行う。</p> <p>○ダイヤモンドランキングの結果をワークシートに記入させる。</p> <p>○各グループの机上のダイヤモンドランキングを見て、自分のグループの結果と比較させる。</p> <p>○話し合いでの意見の対立や、合意に向けて苦労した点などをワークシートに記入させ、教室全体で共有する。</p>

○**圏央道建設をめぐる**

**解説** 首都圏をつなぐ圏央道建設では、東京都の高尾山にトンネル工事することに住民が反対した。住民は、居住の自由や自然保護を争点とし、国・東京都を相手に訴訟を起こした。数回の裁判の結果、2008年、東京高裁での控訴審判決は、「高速道建設は巨額の費用はかかるが、首都圏全体に公益性がある」というものだった。東京地裁では、住民の居住の自由や自然保護の大切さを認める判決も出されたが、最終的にはこの高裁の判決を受けて住民は用地を明け渡し、圏央道が建設された。



↑圏央道建設予定地とされた民家 (東京都あきる野市、2004年)

**4** まとめ

本稿では、「社会的な見方・考え方」に着眼し、参加型学習を取り入れた授業案を提示した。参加型学習を採用することで、生徒は権利の保障と公共の福祉をめぐる対立に当事者としてかわるための意識と、問題解決にむけた合意形成への道筋を体験することができる。また、今回のようにロールプレイングとダイヤモンドランキングを併用することで、「社会的な見方・考え方」をよりいっそう効果的につちかうことができる。

生徒は、個人の権利よりも社会の多数の利益のほうが優先され、個人の犠牲のうえに公共の福祉が成り立つと安易に考えてしまうことがある。だからこそ、人権と公共の福祉をめぐる対立は、公正な判断による合意が大切であることに留意したい。

帝国書院の指導者専用サイトに、本授業研究のワークシートや「役割カード」等を掲載しています。  
(<https://www.teikokushoin.co.jp/members/>)

図3 『アドバンス中学公民資料』p.39 (写真:毎日新聞社)

ここでの重要な視点は、道路の拡張計画は社会の大多数にとって利益にあたるかを検討しながら話し合いを進めることである。さらに、人権と公共の福祉をめぐる意見が対立する際、「公正」と「合意」の考え方を使いながら、両者が納得する解決策を探りたい。

まとめでは、『アドバンス 中学公民資料』p.39「圏央道建設をめぐる」(図3)を示し、話し合いによる合意が見いだされない場合は裁判によって公正に解決する可能性があることにもふれたうえで、考えをまとめさせたい。

表3 第12時の授業展開例

学習内容	指導上の留意点・教師の支援
<p>〈導入：5分〉</p> <p>1 前時のダイヤモンドランキングを見て、たがいにどの点について合意できなかったかふりかえる。</p> <p>〈展開：30分〉</p> <p>2 公共の福祉に着目し、各役割の立場から話し合い、ダイヤモンドランキングをつくる。</p> <p>3 前時と2のダイヤモンドランキングを比較し、変更点や変わらなかった点について話し合い、その理由を考察する。</p> <p>4 役割をはなれて各自の考えで話し合い、再度ダイヤモンドランキングをつくる。</p> <p>〈まとめ：15分〉</p> <p>5 『アドバンス中学公民資料』p.39「圏央道建設をめぐる」を例に、権利の保障と公共の福祉について考えをまとめる。</p> <p>6 ふりかえり</p>	<p>○最も議論になった意見カードを中心に話し合いをさせる。</p> <p>○公共の福祉の視点から、9つの意見の優先順位を考えるようながす。</p> <p>○公共の福祉による人権の制限について気づかせる。</p> <p>○さまざまな立場の意見をふまえ、話し合いを通して合意形成する態度を養わせる。</p> <p>○対立が解消されない場合、裁判によって公正に解決することがあることをつけ加える。</p> <p>○効率、公正の考え方を使い、より良い合意形成の方法についてふりかえる。</p>